英語で外国人観光案内

中高生3人挑戦 楽しさ難しさ実感

JR宇野駅を利用する外国人観光客に英語で話し掛ける生徒

市内の中学、高校生3人が31日、JR宇野駅周辺で、外国人観光客のガイドに挑戦した。増加傾向にある観光客との交流を通じて子どもたちの英語力や国際感覚を磨く市教委の「たまのスチューデントガイド育成プログラム」の一環で、生徒らは生きた英語でのコミュニケーションの楽しさや難しさを実感した。

3人は市教委の募集に応じた中学1年～高校2年。観光ボランティアガイド・つつじの会のメンバーと一緒に、駅舎内やバス乗り場に立ち、外国人を見つけては「グッドモーニング」などと話し掛けながら、宇野港周辺のアート作品、施設を紹介する英語のパンフレットを配布。足を止めた人と言葉を交わした。

最初はなかなか話が弾まなかった生徒も、外国人から年齢を尋ねられ、笑顔で答えるなど次第にリラックス。日比中2年新古朱理さん(14)は「少しでも英語が話せるようになればと思って参加した。メキシコの人とタコスの話題で盛り上がれたのでよかった」と満足そうな表情を見せた。

市教委は同プログラムを18年度から本格始動し、19年の瀬戸内国際芸術祭で外国人のおもてなしができる人材の育成を目指す。3月17日は、生徒12人がインターネットを活用したテレビ電話で英国人に深山公園などを紹介。25日には20人が直島・宮浦港に渡り、外国人観光客に現代美術家草間彌生さんのオブジェ「赤かぼちゃ」などを説明した。（正本和臣）

（C）山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。

2018年4月1日 山陽新聞朝刊 32ページ